

2020

区分

必修

対象

I部3年制2年

科目名	スタジオライティング		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	市川 森一		
授業の到達目標・講義概要	<p>前期は、物撮りを通して、スタジオライティングの基本的な考え方を学びます。今までやってきたことから更に踏み込んで、細部にまでこだわっていきます。</p> <p>後期は、大物のライティングを通して、自由な発想で考えることの大切さを学びます。王道に縛られず、今までに見たことのないようなオリジナルの表現を見つけることが目標です。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	授業概要	年間授業計画、授業の目的について、スタジオ機材の使い方
	2	切り抜き	切り抜きについて 缶を被写体に、メインライトとハイライトを理解する。
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14	模写	プロの参考写真を探してきて、真似してみる
	15		
後期	1	自然光再現	自然光を再現する 各自が外で撮影してきた光の写真を参考にして、スタジオでライティングを作ってみる
	2		
	3		
	4	写真以外を参考に	絵画・映画・アニメ等、写真以外の表現を参考にして、ライティングを作ってみる
	5		
	6		
	7		
	8	色について	色の観点から、画作りについて考える
	9	場所を活かす	スタジオ以外で、場を活かしたライティングを考える
	10	いろいろな光	ストロボ以外のさまざまな光を使ってライティングする
	11	複写の可能性	写真そのものを撮影することによる表現について考える
	12	カメラをかえる	異なるカメラによる、表現の違いを学ぶ
	13	時間表現	時間の観点から、写真表現の可能性を考える
	14		
	15		
成績評価方法	100点満点として採点する。出席状況、課題内容、授業態度等から総合的に評価する。なお、出席が全体の2/3未満の場合は、不合格となります。		
テキスト 参考書			
講義の特徴・形式 と教員紹介	実際にスタジオにてライティングしながらの実習授業を基本とする。担当教員は大手広告制作会社(株)VDA(アマナグループ)に所属し、独立し、フリーランスのフォトグラファーとして、主に広告写真の分野で活躍中。広告写真やライティング、オリジナリティーのある写真がとれるフォトグラファー育成に向けた授業を展開する。		

2020

区分	必修	対象	I部3年制3年 I部2年制2年
----	----	----	--------------------

科目名	映像表現論		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	菅沼 比呂志		
授業の到達目標・講義概要	<p>時代とともに写真表現が変わってきています。カメラやフィルムといった撮影のための技術や、プリントやプロジェクション、展示などアウトプットの技術も変化しています。そのような中で写真界の先人たちがどんなことを考え、どんな表現をしてきたかを考えます。授業では、現代から時代を遡って作家を取り上げ、作品を上映した後、授業の参加者と対話をしながら進め、学びます。写真を見て、考えて、話して、聞くという様々な写真的経験を積み重ねる授業にしたいと思います。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真作品を見て、写真家がどんなことを考えて、何を伝えようとしているのか考え、自分の言葉で語れる力を身に付ける。 ・それぞれの時代に登場してきた写真家の作品の特徴と、その制作背景を理解し説明することができる。 		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	ガイダンス	日本の写真界を取り巻く現況を考える
	2	講義	00年代に登場してきた作家を紹介
	3	講義	
	4	講義	
	5	講義	
	6	講義	
	7	講義	
	8	講義	
	9	講義	
	10	講義	
	11	講義	
	12	講義	90年代に登場してきた作家を紹介
	13	講義	
	14	講義	
	15	講義	
後期	1	講義	90年代に登場してきた作家を紹介
	2	講義	海外の写真家紹介①（アジア編）
	3	講義	
	4	講義	
	5	講義	80年代に登場してきた作家を紹介
	6	講義	
	7	講義	
	8	講義	ギャラリー巡り
	9	講義	
	10	講義	
	11	講義	60～70年代に登場してきた作家を紹介
	12	講義	
	13	講義	
	14	講義	海外の写真家紹介②（欧米編）
	15	講義	まとめ
成績評価方法	100点満点として採点する。授業中の発言内容と遅刻・出席回数、提出課題で判断。期日通りの課題提出や発表ができない場合、単位は与えられません。なお、出席が全体の2/3未満の場合は、不合格となります。		
テキスト 参考書			
講義の特徴・形式 と教員紹介	講義形式を基本とするが、学生とのディスカッション、対話なども取り入れる。担当教員は若手アーティストを支援するギャラリー「ガーディアン・ガーディアン」の立ち上げに参加。以後、若い世代の新しい表現を求めた公募展『ひとづは展』（'92～'08年）や『I.WALL』（'09年～）の運営のほか、中国・平遥国際写真フェスティバル、韓国・東江写真フェスティバル、アダ・フォト・ビエンナーレ、台湾・Young Art Taipei等でも展覧会の制作やポートフォリオレビューのレディューをこなす。現在もキュレーターとして、様々な展覧会の運営に携わっている。その経験から現代作家、写真家育成に向けた授業を展開する。		

2020

区分	必修	対象	I部2年総合
----	----	----	--------

科目名	総合写真研究ゼミB		
-----	-----------	--	--

開講期	前後期	単位数	6
-----	-----	-----	---

講師名	菅沼 比呂志		
-----	--------	--	--

授業の到達目 講義概要	<p>表現者としての基礎能力を高め、技術を身につけることを目指します。作品制作を通して、自分なりの作品作りのプロセスを考え、その作品にあった作品の見せ方・プレゼンテーションの技術を探ります。また、写真の誕生以来、数多くの作家たちが様々な手法で作品を作ってきました。その先人たちの作品にも触れ、手法を参照、研究しながら、自らの作品作りに生かすことも考えます。参加者の意欲や習熟度にあわせて授業内容を見直していきます。</p>		
-------------	---	--	--

	<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制作過程を通じて、自分なりの美意識・世界観などを構築できる。 ・作品の企画・制作、作品に応じた適切なプレゼンテーションができる。 		
--	--	--	--

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
------	----	-------	------

前期	1	ガイダンス	授業内容の説明
	2	演習	それぞれの1年次の作品と春休みの課題を観る (ABゼミ連続)
	3	講義	作家・作品研究
	4	講義	作家・作品研究
	5	講義	作家・作品研究
	6	演習	作品合評会
	7	演習	作品合評会
	8	演習	作品合評会
	9	講義	作家・作品研究
	10	講義	作家・作品研究
	11	演習	作品合評会
	12	演習	作品合評会
	13	演習	作品合評会
	14	演習	期末審査に向けて
	15	演習	期末審査に向けて

後期	1	ガイダンス	後期ガイダンス
	2	講義	作家・作品研究
	3	講義	作家・作品研究
	4	演習	作品合評会
	5	演習	作品合評会
	6	演習	作品合評会
	7	講義	作家・作品研究
	8	講義	作家・作品研究
	9	演習	作品合評会
	10	演習	作品合評会
	11	演習	作品合評会
	12	演習	作品合評会
	13	演習	作品合評会
	14	演習	期末審査に向けて
	15	演習	期末審査に向けて

成績評価方法	100点満点として採点する。授業中の発言内容と遅刻・出席回数、提出課題で判断。期日通りの課題提出や発表ができない場合、単位は与えられません。なお、出席が全体の2/3未満の場合は、不合格となります。
--------	--

テキスト 参考書	
-------------	--

講義の特徴・形式 と教員紹介	講義形式を基本とするが、学生とのディスカッション、対話なども取り入れる。担当教員は若干アーティストを支援するギャラリー「ガーデン・ガーデン」の立ち上げに参加。以後、若い世代の新しい表現を求めた公募展『ひとつぼ展』(’02-’08年)や『11WALL』(’00年-)の運営のほか、中国・平遥国際写真フェスティバル、韓国・東洋写真フェスティバル、マナー・マナー・ビエンナーレ、台湾・Young Art Taipei等でも展覧会の制作やホータリオリゼーションのレビューをこなす。現在もキュレーターとして、様々な展覧会の運営に携わっている。その経験から現代作家、写真家育成に向けた授業を展開する。
-------------------	--

2020

区分	必修	対象	I部3年総合
----	----	----	--------

科目名	テクニカルライティング		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	赤坂 トモヒロ		
授業の到達目標・講義概要	<p>この授業では、より実践的で応用的なスタジオワークや商品撮影のライティングを学ぶと同時に、近年フォトグラファーに求められることが増えてきた一眼デジタルを使用した基本的な動画撮影を学びます。いわゆる「ブツ撮り」のテクニックを身につけることは、目指す写真分野に関係なく大変な強みとなります。前期は与えられた課題を精密にこなしていくことを中心に進め、後期は講師あるいは自らがテーマを設定して作品を撮っていくことを中心にシフトし、作品に対して講師から与えられる課題をクリアしていくことで完成度を高めると同時に、ディレクターやクライアントのオーダーに応えることができるフォトグラファー育成を目標とし、撮影という実践を意識した内容で進めます。各回ごとにレタッチや合成を行なった画像を翌週の授業内で提示し、個別に講評を行います。また、前期に2回の動画撮影実習を行います。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	復習	1, 2年次の復習的な切り抜き撮影を実施
	2	課題撮影①	講師の提示する課題作品を模写する
	3		
	4		
	5	課題撮影②	講師の提示する課題作品を模写する
	6		
	7	課題撮影③	講師の提示する課題作品を模写する
	8		
	9	課題撮影④	講師の提示する課題作品を模写する
	10		
	11	課題撮影⑤	講師の提示する課題作品を模写する
	12		
	13	課題撮影⑥	講師の提示する課題作品を模写する
	14		
	15	動画撮影②	インタビュー動画の撮影を通して、動画撮影の基本を学ぶ
後期	1	作品撮り①	事前に講師が提示した課題を踏襲した形で作品を制作する
	2		
	3	作品撮り②	事前に講師が提示した課題を踏襲した形で作品を制作する
	4		
	5	作品撮り③	事前に講師が提示した課題を踏襲した形で作品を制作する
	6		
	7	作品撮り④	事前に講師が提示した課題を踏襲した形で作品を制作する
	8		
	9	作品撮り⑤	各自・各グループがテーマ設定から自由に作品を制作する
	10		
	11	作品撮り⑥	各自・各グループがテーマ設定から自由に作品を制作する
	12		
	13	作品撮り⑦	各自・各グループがテーマ設定から自由に作品を制作する
	14		
	15		
成績評価方法	100点満点として採点する。出席状況、課題内容、授業態度等から総合的に評価する。なお、出席が全体の2/3未満の場合は、不合格となります。		
テキスト 参考書			
講義の特徴・形式 と教員紹介	実際にスタジオにてライティングしながらの実習授業を基本とする。担当教員は大手広告制作会社(株)アマナに所属し、独立し、その後フリーランスのフォトグラファーとして、独立。ムービーとスチールの両方の撮影ができるフォトグラファーとして活躍中。クライアントのオーダーにこたえることができるフォトグラファー育成に向けた授業を展開する。		